

東地区 折川山(602M 峰?)崩れ 就中(なかんずく)石滝 寒川与助 山林崩壊の為め杉谷所有の中平構下 杉山不残 崩壊す 栗ノ木田地 四反余り不残流失す。折川口 変ジテ 大田崎え 直流となる 丹生平間向い五味善左エ門 所有の になの瀬山(ニナノセ?)崩壊し川堰 とめたる為に玉置善吉初め九戸流失す 五味紫郎宅半流 丹生社拝殿長床流失 本社半流失大破損を受く 入平の人民不残(残らず)五味録朗宅に寄合い それより白山(?)に登り大応寺(?)に移り夜を明す。

土地久保(栃久保?)垣内にては原氏 長屋の後より土井の段赤田の岸端まで崩れ、役場押出し半潰す。碓(上の碓(はざま)?)田畑荒れたるは井谷杉山の崩壊の為なり、前垣内上流の田地ことごとく流失す。

寺の原田ノ岡重助の納屋、牛舎流失するは溜池破壊の為なり、それより上み 桑垣内(?) 辺り六之助方の山崩れのため埋没多数あり。上ノ碓(うえのさこ?) 田ノ岡友太郎、玉置兵作、松本弥之助方何れも背戸山崩れ埋没あり。

村内(旧東村)の田池流失およそ五分五厘なりと、ちなみに中平(?)にては平田より三枚下の田まで川本上る。また栗ノ木屋敷田に大木流れ込みあり、是は丹生ノ川向い山崩壊により一時湖水となりたる為なりと思考す。西、宮代、殿原、丹生川地区西村は龍(?) 神往来より下たの田地ことごとく流れ寒川佐助、崎山庄藏は山崩れのため埋没す。

宮代拾七、八戸流失または埋没死者七人 殿原上み古久保文太エ門方の長屋大破損其の他 死人九名諸島 柿平(?) 杉本利助宅流失に付 古久保角太郎方及び家内 不残流失死亡す。

丹生川死人三名 丹生川奥 亀田山は大崩壊せる由 広井原 湯の又 小又川 三ッ又 龍神広井原死人八名 流失家屋若干 湯の又 榎本佐平次の背戸山 崩壊のため家及び家内不残 日高川に突出流失す。

同所にては川向空(?)の踊堂の表まで川水上る 是は佐平次方の背戸山崩壊のためなり。小又川山林田畑流失あるも死人なく。三ッ又は死人三名 田畑ことごとく流失村内(三ッ又村)生地(残った田畑)二反なり村内全廃につき他所へ移住との事なり。龍神湯本は花屋 龍神仁蔵方へ湯平の人民及び宿り客およそ三十人集りありしが背戸山崩壊にて家屋全壊し内十五人生存者を掘り出し残り十五人は圧死す。

湯本より奥在所も大荒にて権之助宅家内不残死す。安井、福井、甲斐ノ川、小家 安井 五領平の田畑ことごとく流失、家屋流失あり、榎屋表田地 八分通り流る。柳瀬上みも大荒なり、右二ヶ村に死人壱名もなし、下柳揃は六地藏山崩壊 小柳瀬に崩れ込み、一時大湖水となりたるを以て同村は八十三戸の内七十戸流失死人八十三名なり。

小山為十郎、古久保新七、吉本助之進の三戸は家内老人ものこらず家と共に流される。同村へ出張巡查鈴木某の母親流死す。各村の中 下柳瀬が第一等災害なり福井、甲斐川、小家 三ヶ村も同様大荒なり、その内小家村流失家屋十七戸田地は大半流失せり 山地各村の杉山土地の過半 崩壊流失す 日高川は土石に埋り柳瀬ヒロダ瀧 東の折川の爆 も埋る。 各村の道路溝等は破壊し比の姿にては流れ残りの田地ありといえども来年度の作付は困難なり以上

杉谷静一郎の水害日誌によると

宮代 死者七人

殿原 死者九人 外に古久保勝太郎家内残らず流失死亡す。

丹生ノ川 死者三人

小又川広井原 死者八人

三ツ又 死者三人

龍神湯本 死者十五人 外に湯本奥権之助家内残らず死す。

下柳 死者 八十三人

合計 死亡者 百二十八人 以上

以上